

# 廃校を活用した自然体験活動の実践的研究

0503 荒木香緒里  
指導教官 市川智史助教授

## 1. はじめに

近年では、少子化、過疎化などが原因となって各地で廃校が増加している。特に山間部には、分校も含め多くの廃校があるが、地元でなかなか有効な活用案が出されず、都会の廃校のような活用は進んでいない。筆者は偶然、関わっていた子どもに自然体験をさせる活動の中で、山間部の廃校に宿泊する機会を得た。その特有の雰囲気、取り巻く環境などに強く魅力を感じ、新しい自然体験の拠点宿泊施設として興味を持った。

そこで本研究では、①全国的な廃校の概況を調査するとともに、②実際に廃校を活用した自然体験活動の実践事例から、廃校が潜在的に持つ力（フィールド・ポテンシャル）を分析し、活動を企画・運営する立場に立って、③廃校を自然体験活動の拠点として活用する際の視点を示し、提案するものとする。

## 2. 廃校活用の概況

過去10年間の廃校発生数は全国で2125校。

全体の7割が小学校。山間部等の過疎化による廃校が全体の6割を超える。（文部科学省調べ）

## 3. 廃校活用の事例とフィールド・ポテンシャルのまとめ

- 【事例校】 ①滋賀県今津町 今津西小学校椋川分校  
②滋賀県日野町 鎌掛小学校  
③京都府京北町 山国小学校陵北分校  
④福井県池田町 池田第一小学校水海分校

### 【まとめ】

自然（自然環境）面：自然が豊かで学校のすぐ周りにあり、自然に慣れない子どもでも遊びやすい。

地域（文化・社会的環境）面：地元住民と交流し、地域の文化や伝統に触れる活動も可能である。

学校の設備・機能面：最低限の生活設備と様々な活動に対応するスペース、安心感や懐かしさがある。

## 4. 廃校を利用した自然体験活動の実践

学校周辺の自然を生かした活動：自然探検、野外炊飯、外遊び等

廃校の持つ懐かしさを生かした活動：昔からの遊び（おにごっこ、めんこ、パチンコ等）

電気の無い不便さを生かした活動：野外炊飯、焼き芋、星空観察、読み聞かせ等

表1 実施したプログラム

1日目： 校内宝探し大会 [校舎内全体] 学校周辺探検 [学校周辺] 昔の玩具作り・遊び [体育館]
2日目： ホットドック作り [校庭] 雑巾がけ大会 [廊下・教室] ふりかえりの大きな絵 [体育館]

実践校：京都府京北町 宇津小学校  
日程：2003/11/29(土)～30(日)  
天候：雨時々曇り  
参加者：7人(小4:4人 小1:3人)

## 5. 廃校を活用した自然体験活動の提案と活用の視点

- ・廃校後は早い段階で活用を開始することが重要である。
- ・廃校は、子どものための自然体験施設として特に有効である。
- ・廃校は、地域交流のできる自然体験施設として活用できる。
- ・フィールド・ポテンシャルを生かし工夫して活動することがこの活動のおもしろさであり、活動において学校周辺の自然や地域との距離を近く保つことにもなる。
- ・自然体験施設として整備するにあたっては不便さも一つの魅力と考え、野外炊飯を行い、五右衛門風呂を用意するなどして、施設整備は最小限に留めたい。